

みなさまからのご支援の成果です

エファジャパン年次報告書 2006

ご挨拶



エファの仲間として私達の活動を応援して下さったみなさま、2006年度の活動を様々な成果と共に終えることができましたことを、まずはお報告し、御礼申し上げたいと思います。

2004年10月に設立して以来、ベトナム・ラオス・カンボジアの子どもたちが毎日を元気に遊び、学ぶための手助けをみなさまと一緒に続けてこられたことに、大いなる感謝と誇りの念を感じています。

自治労が開始した国際貢献事業を引き継いだエファジャパンの活動はとても具体的です。路上で暮らしていた子どもが保護され、学校へ通うようになる。手を洗うことさえ知らなかった子どもが、体を洗い清潔な服を着るようになる。こうして、小さいながらも、確実に一人ひとりの生活を変えることに

よって、子ども自身だけでなく、その子に関わる全ての人々に大きな影響と変化を与えることができます。そしてこの活動の影には、子どもたちに対する支援者のみなさまの思い、彼らの生活を想う想像力が、大きな原動力となってエファを動かしていることを、私達は決して忘れません。

ここに、2006年度エファジャパン活動報告をいたしますと共に、これからの1年間、事業の着実な実行とさらなる充実のために、みなさまには引き続きエファジャパンと共に歩んでくださいますことを、心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人エファジャパン
理事長 イーデス・ハンソン

目 次

ご挨拶	2	緊急・人道支援	8
2006年度活動ハイライト	3	エファグッズ 開発・販売	9
ベトナム	4～5	国内事業	10～11
ラオス	6	会計資料	12～14
カンボジア	7	エファジャパンの組織	15

2006 年度活動ハイライト

・・・海外事業・・・

・ベトナム・ホンバン愛の家支援開始

2006 年度 6 月より、「ベトナム子どもの家」近隣にある児童保護施設「ホンバン愛の家」を支援対象に加えました。それまでは予算の不足から食費も充分ではなく、保護されている年長の子どもがアルバイトで運営費の一部を担っている状態でした。支援開始により、子どもの就労を一切廃止し、栄養バランスのとれた食事を充分に提供することができるようになりました。

・ラオス・ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール（石田記念館）完成

計画決定から約 2 年間を費やしたラオスの図書館が 2006 年 9 月に完成。同 12 月から本格オープンし、毎日 300 人以上の利用者が来館しています。

・・・国内事業・・・

・広報誌「えんばわ」創刊

エファ会員への情報提供を充実すると共に、一般市民へ向けてエファの活動を紹介する広報ツールのひとつとして広報誌「えんばわ (Empower)」を創刊しました。

・エファパートナー制度開始

年次定額寄付制度「エファパートナー」を創設しました。エファジャパンのメンバーとしてある一定の責任と関係を持っていただく会員とは別に、より気軽にエファの活動に参加できる制度です。

・エファジャパン設立 2 周年記念イベント

2006 年 10 月にエファジャパン設立 2 周年を迎えた記念に、写真家大石芳野さんをお招きして写真展及びエファジャパン理事長イーデス・ハンソンとの対談イベントを実施しました。



ベトナム Viet Nam

ベトナム概況

・支援が必要な背景

めざましい経済発展を遂げているベトナムですが、貧富の格差が拡大し、近年では児童虐待や犯罪の低年齢化の問題も大きくなっています。出生届がないために、学校教育や健康保健などの社会福祉さえ受けられない子どもも多く存在しています。

・支援の目標、目的

ベトナムは国連子どもの権利条約を世界で2番目に批准した国家です。安全な生活も教育も子どもの権利であるという共通の認識のもとに、経済的な支援とともに現地政府と協力し合っ、前述のような問題に対する改善策を導き出していきたいと考えています。

ベトナム子どもの家支援事業

■子どもの家概況

1995年に、ベトナム北部のハイフォン市レチャン区に自治労の支援により子どもの家が設立され、エファジャパンが運営支援事業を引き継ぎました。現在はハイフォン市児童保護基金が管轄し、エファジャパンとともに支援事業を展開しています。子どもの家では、貧困ゆえに学校へ行けなかったり、両親が犯罪に手を染め置き去りにされてしまったり、人身売買の手から逃れてきたりといった多くの困難を抱えた子ども達が、衣食住の保護を受けたり、勉強や職業訓練に通ったりしています。現在、衣食住の保護を受けている子どもは約10名おり、保育士や先生方に見守られながら生活しています。

2006年は一時保護を受けていた二人の姉妹が最終受

け入れ先の施設に移転し、新たに二人の子どもが保護され、また失語症の子どもが養護学校へ通い始めました。二人の姉妹は新しい施設にすっかり慣れ元気に過ごしています。



ベトナム子どもの家の識字教室

■支援事業

5月より、自治労鳥取県本部の支援を受けて、子どもの生活状況改善支援事業が開始されました。この事業は子どもの家だけでなく、後述のホンバン愛の家も対象とし、両施設に保護されている子ども達計約20名が支援を受けています。本事業は3年間の予定で、少ない運営資金に脅かされずに安定した衣食住環境を維持するために子ども達の食費を中心とした支援、及び、情緒や社会性を養う機会を作るための文化活動支援、これら2つを目的としています。現在は食費が約2倍に増え、質、量ともに大きく改善されました。また課外活動が増え、両施設合同での泊りがけの遠足も行われ、子ども達の交流の場が増えました。発育途中の子ども達が、本支援事業開始により心身ともに大きく成長してゆく様子が見えて

います。

6月より、自治労栃木県本部の支援を受けて、子どもの家職員処遇改善支援事業が開始しました。子どもの家には保育や勉強、職業訓練などに従事する約13名の職員達が勤務していますが、調査結果から、やはり財政難により彼らの給与は最低限望まれる金額よりも30%以上も下回っていることが分かりました。職員は皆熱心ですが、実際には現実的な問題から離職も少なくありませんでした。そこで、処遇支援を通して職員が更なる責任と熱意の持続を形成し業務に専念することで、子どもの家の安定した活動と発展を目指すために本事業を開始しました。本事業の期間は5年間、子どもの家の全職員を対象に、上述の30%に当たる部分を補填しています。また本事業開始に伴い、子どもの家とエファジャパンとで必要に応じて新しい活動を開始する話し合いも積極的



ベトナム子どもの家理容師養成教室

に持たれています。その一つとして、これまでに男子の職業訓練教室がなかったことを考慮して、理容師養成教室が

開設されました。熱心な先生のもとに男女とも多くの生徒が楽しく学んでいます。

■ベトナムでのNGO登録

ベトナムで海外のNGOが活動するには政府機関であるPACCOM（パッコム）に登録をしなければなりません。エファジャパンも2006年6月に規定の手続きを終え、10月に正式に活動認可が下り、12月に認可証書を受け取って来ました。今後は年に2回、会計と事業報告を送って情報を共有し、登録NGOとして必要な際にはPACCOMの協力を受けることが出来ます。

ホンバン愛の家支援事業

■ホンバン愛の家概況

1999年に設立された児童保護施設で、ホンバン区人口家族子ども委員会の管轄で運営されています。慢性的な財政難が大きな問題であったため、2006年よりエファジャパンが支援を開始しました。現在、保護されている子どもは約10名。ホンバン愛の家にも識字教室等がありますが、職業訓練教室は財政難と設備不足のため閉鎖されました。そこで、支援を開始してからは子どもの家の活動への参加や交流の機会を増やし、子ども達の活動の場を広げています。

2006年は二人の子どもが家族の元へ戻り、新たに二人の子どもが保護されました。行政機関と協力し、家族の元へ戻った子どものフォローアップもしていきます。

■支援事業

前述の通り、5月より自治労鳥取県本部の支援にて、子どもの生活状況改善支援事業を子どもの家とともに開始しました。慢性的な財政難は子ども達の生活を既に脅

かしており、何人かの子どもは学校等の合間に靴磨きや新聞売りのアルバイトをして運営資金の一部を担っている状況でした。そのため子ども達が施設内で子ども

もらしく過ごす時間が減少し、また、施設の外では職員のみも届きにくいことから、非行や犯罪に手を染める危険が心配されていました。そこで、本支援事業開始によって子ども達の就労を一切なくすことをホンバン区人口家族子ども委員会と確認しあい、子どもを取り巻く環境が大きく変わりました。就労がなくなったことで課外活動に参加する時間ができ、自治労栃木県本部の支援によってさらに充実した子どもの家での活動にホンバン愛の家の子どもたちも通うようになり、現在はいくつかの支援事業が相乗効果をあげるようになってきています。



ホンバン愛の家の昼食

アジア子どもの家奨学金基金

1999年より自治労栃木県本部が計500万円をハイフォン市に委託し、その利子のみを奨学金として活用しています。2006年は文房具等数十名分、障害児や緊急治療の必要な子ども達の医療費、子どもの家の保護児童及び通っている子ども達の健康保険料が支払われました。2006年より、エファジャパンが本事業にかかる必

要な調査や協議を児童保護基金とともに進めることになりました。

当基金創設当時から比べて金利が約半分程度に下がっていることや物価上昇の問題はありますが、元金を崩すことなく最も効果的な基金運営を児童保護基金と協議しながら進めていきたいと思っています。

子どもの早期ケアと発達支援

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）との共同事業で、山岳地域のイエンバイ省にて少数民族を含めた子どもの総合的学習支援事業を地元政府機関による運営委員会とともに進めています。子ども達の発育状況改善とともに、運営委員会や住民の能力向上を目指し、自主的に継続活動ができるよう指導を続けています。僻地では、幼児期における教育や様々なケアの重要性が地域全体で認識されていないことが問題であり、地域の能力向上とフォローアップ事業が重要な課題です。

調査では、既に地元主導型に移行しつつある活動も見られ順調に進んでいることから、前年度の共同事業内容を再検討し、2006年度は予算を約三分の一に減らし、そのかわりに人材育成のための研修事業に焦点をあてることにしました。保育士研修、母親・父親学級、青年層における幼児教育指導、離乳食指導、おもちゃや教材作りなどの研修支援を重点的に行ったことで、就学前教育の質の向上と重要性の認識を高め、住民参加型の活動を活発に展開させることができました。

ベトナム事業の今後

これまでハイフォン市の中で二つの児童保護施設を支援してきましたが、職員の能力向上や専門性を高めるために研修制度を導入する必要があり、現地からも要請がきています。研修制度の基盤を作り定期的に行うことで、市全体の施設の質を高め、子ども達の活動の場や将来の可能性を広げていく支援事業も予定しています。

ラオス Laos

ラオス概況

・支援が必要な背景

出版物が非常に少ないことに代表されるようなラオスの教育・文化・社会の貧困状況には、近年あまり変化はありません。2006年に刊行された国勢調査の結果（2005年度調査）も、改善の方向にあるものの、依然として絶対的な統計指標は低い水準です。

・支援の目標、目的

ヴィエンチャン図書館を子どもから大人まで学べる施設として展開することによって、その活動が全国のモデルケースとなり、既存の図書館・子ども文化センターを始め、それらの施設がまだ無い地域にも良い影響を及ぼすことを期待しています。

ヴィエンチャン市立図書館事業

ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール（石田記念館）の建設工事は、当初2006年7月中には完成の予定でしたが、悪天候による遅れと、一部の追加工事を8月に発注したため、最終的に工事が終了したのは9月22日の現地完成式典（譲渡式）の直前となりました。

職員予定者の開設準備室（「子どもの家」内）への配属は4月前後から始まり、5月には職員研修が行われました。さらに6月に1名が加わり、職員体制は計6名となりました。並行して図書の購入・受入・整理、備品の発注・搬入も進められました。

10月下旬の暫定開館を経て、11月から運営支援を開始し、2007年4月には所管部局である情報文化局と合意文書を交わしました。12月に正式開館した後は、隣接するヴィエンチャン中学・高校の生徒たちをはじめ、毎日300人以上の利用者が来館しています。

- ・建築物の構造＝鉄骨併用鉄筋コンクリート造平屋建
- ・建築面積＝775㎡（うち図書館部分422㎡、多目的ホール部分275㎡）
- ・建設工事 2006年1月／着工、9月／完工
- ・開館時の蔵書＝6,349冊（うち児童書1,658冊）
- ・開館時の職員＝館長以下6名（契約職員2名を含む）



市立図書館で本を読む近隣中学・高校の生徒たち

■概要

- ・支援団体＝自治労中央本部および北海道・東京都・愛知県の各県本部
- ・提携 NGO＝社団法人シャンティ国際ボランティア会
- ・ラオス政府の所管部局＝ヴィエンチャン特別市 情報文化局

ルアンパバン子ども文化センター支援事業

自治労の支援により首都ビエンチャン市に設立された子どもの家は、失われつつある伝統文化を子どもたちに継承することを目的に運営されています。この事業が成功し、子どもの家をモデルにした子ども文化センターが様々な県に作られています。その中でも、ルアンパバンにある子ども文化センターは、2001年より自治労佐賀県本部が運営支援を始め、活発な活動をしています。また、伝統文化の継承だけでなく、同時に子ども達の自主

性、積極性、想像力なども育っています。昨年の評価会議からは、指導者も熱心であり子ども達も積極的に参加するなど、子ども達の活動は順調であるが、財政難の問題から施設運営や職員の待遇支援が今後必要である、という報告がありました。しかし、本支援事業は2007年12月末で終了することになっているため、2007年は現地調査等を通して、現場の声を考慮したフォローアップに向けた対策を検討します。

ラオス事業の今後

国内での行政業務が統一されていないラオスにあって、新設されたこの図書館が円滑に、かつ正しく進められるよう、内部の体制を整備します。加えて、資料収集・子どもを対象とした活動やホール事業を含む施設全体の実施計画の作成を支援します。また、ルアンパバン以外にも、ラオス国内の子ども文化センターへ必要に応じて支援をしていきます。

カンボジア Cambodia

カンボジア概況 ・ 支援が必要な背景

内戦・侵略が繰り返され社会システムが崩壊したこの国は、現在様々な国際援助により復興を目指していますが、経済成長と都市化に伴い貧富の格差が広がりスラムも増え続けています。将来を担う若者や子ども達に、健全な育成や教育など様々な機会を提供する必要があります。

・ 支援の目標、目的

ポル・ポト時代の、教育者を含む知識階級の虐殺等を原因とする教育分野の遅れから、就学率や識字率の低さが顕著であり、政府も改善に力を注いでいます。子どもたちがどんな状況にあっても教育を受けることのできる環境を整備することが、緊急の課題だと考えています。

カンボジア子どもの家とスラムの子ども支援事業

■子どもの家概況

1997年、自治労の支援によって、カンボジアの首都プノンペンにある国立幼稚園教師養成学校の附属幼稚園として設立されました。子どもの家は養成学校の研修の場でもあり、教育者と子どもの双方を育成する施設としてカンボジアの教育事業に大きく貢献しています。また、子どもの家は、特にスラムの貧困家庭にとっては教育と栄養と安全を同時に受けることができる唯一の場所であり、重要な存在になっています。

■スラム概況

どのスラムにも共通するのは貧困、不衛生、そして子どもの数が非常に多いことです。スラムの住民は主に日雇いや屋台の仕事をしているため生活は不安定で低収入です。日々の生活に追われ、子どもに教育を受けさせる余裕もなく、時には子どもに労働を課すこともあります。

■奨学金事業

自治労奈良県本部の支援により、子どもの家近隣のスラムから26人の子ども達が奨学金を受けて子どもの家で学ぶことが出来ました。スラムの子どもは小学校へ入学しても脱落してしまうことが多い中、幼稚園で学んだ子どもは既に多少の読み書きが出来るため、授業をよく理解し進学率が高いといわれています。奈良県本部の支援は12月末で終了しましたが、現在はエファジャパンが引き継ぎ26人全員が元気に通っています。今後もスラム内での教育啓発活動を通して教育支援を行い、就学率向上と児童労働撲滅を目指します。



スラムの大家族

公立幼稚園保育研修及び保育教材普及支援事業

カンボジア教育省の要請を受け、2004年から4年計画で、幼い難民を考える会(CYR)とエファジャパンとの共同事業により、カンダール州全ての公立幼稚園の保育者研修を行う他、老朽化の進んだ幼稚園の改築工事、教材・遊具の使途状況の調査を行いました。改築工事は11月に終了し、現在は子ども達90名が通っています。

また、研修の結果、多くの幼稚園で随所に自発的な工夫が見られるようになりました。尚、昨年度建設したプノンペン郊外の幼稚園においては指導と観察の必要性が残り、フォローアップを一年延長することになりました。現地の州担当者や幼稚園担当者が研修後も自らフォローアップできるように繋げていく予定です。

保健衛生医療スタッフ等の育成・疾病予防啓発活動他支援事業

かねてより自治労神奈川県本部がSHAREと行ってきた支援事業に、1月より自治労本部の支援が加わりエファジャパンも共同事業者として参加しました。本支援事業では、ヘルスセンターの能力向上支援とともに、ピ

アエデュケーションという仲間間で教育をする自発的手法の体制強化も行っています。子ども達の健全な将来を支えるという共認識のもとに、関係者各位と協力して、共同事業者として問題解決に向かっていきます。

カンボジア事業の今後

既存の事業は更に充実・発展に結びつくよう努力していきます。また、近年スラムの強制移転により通学を断念せざるを得ない子どもが増えている現状から、どのような状況でも教育にアクセスできるようなノンフォーマル教育の開始を検討中です。現地NGOの活動を支援し、現地に根付いた活動を協力して展開して行きたいと考えています。

緊急・人道支援

エファジャパンでは、災害・戦争などが起きた際の緊急・人道支援を行っています。2006年度はパキスタン地震とジャワ島地震に対応した支援を実施しました。

パキスタン地震被災者支援事業

2005年10月8日、首都イスラマバードから北東へ約90キロ、パキスタン北西辺境州バラコット付近を震源とするM7級の地震が発生しました。2006年1月のパキスタン政府発表によると、死者73,338人、負傷者69,412人、家を失った人は約280万人と推定されています。

パキスタンの山村ではもともとトイレの設置率は60%程度。しかし、そのトイレも地震により壊れてしまい、野外排泄の増加により川が汚染されるなど、特にエファジャパンが支援を始めた頃（2006年春）から夏を迎えるにあたり衛生状況の悪化が懸念されていました。気温の上昇と避難生活による人口の密集により下痢や皮膚炎が流行し始めたのです。そこでエファジャパンはJVC（日本国際ボランティアセンター）と共同で、被災地の衛生対策支援として簡易トイレの設置を行いました。

・村落トイレ

設置されたトイレを、住人が「地域の持ち物である」という意識を持ち自主的・積極的に正しく使用・管理できるように、住民による自主的な設置を基本にしています。

作業の手順：住民からの設置希望→希望地の調査（生活用水からの距離・地下水の有無等）→設置に必要な部

材の提供→住民による設置作業。

・衛生指導

トイレ設置と同時に現地の衛生指導員が村や小学校を巡回して、歯磨き・水浴び等の生活習慣について指導を行い、終了後に手洗い用の器やタオル、石鹸などを手渡します。

・学校トイレ

UNICEF（ユニセフ）の「ウェルカム・トゥー・スクール」キャンペーンに協力し、仮設学校トイレの設置も行いました。「ウェルカム・トゥー・スクール」キャンペーンは、崩壊した小学校が再建されるまでのあいだ、テント学校を設置し授業を受けられるようにする支援事業です。仮設小学校にトイレを併設することで、子どもたちの公衆衛生意識を高める効果もあります。

■実績

- ・村落トイレ 143基
- ・学校トイレ 70校
- ・衛生指導 15村 合計 12,929人

※経費の支出は2005年度に終了

ジャワ島中部地震被災者支援事業

2006年5月26日にジャワ島で発生した地震は、死者が6,000人にのぼる大きな被害を引き起こしました。エファジャパンでは同6月1日から7日まで職員を現地に派遣し、現地NGO二団体（ディアン・デサ財団、アマルタ・インスティテュート）と連携して被災状況を調査。支援を行うことを決定しました。

・ジャワ島支援のための募金

6月よりジャワ島支援のための募金を開始しました。同10月までの間に個人30名、団体・グループ22団体から合計9,055,596円の寄付をいただきました。

・支援事業

居住地でのテント生活を続けながら復興を目指す住民を支援するため、住環境の整備を行います。まず、住民の健康を守ることを優先し、公共トイレの設置を現地N

GOと共に実施しました。ほとんどの家屋が倒壊し、水道などのインフラ設備も破壊された状態でのテント生活では衛生環境の悪化が懸念され、体力が低下している被災者には感染症・伝染病の危険も高くなります。二次災害を防ぐ意味からも、衛生管理は大変重要です。

また、もともと共同体での互助が活発な地域でしたが住民委員会の集会所も倒壊したため、村の主体的な自立のために、倒壊した住民委員会集会所の仮建設も行うこととしました。

■仮設トイレ設置事業

- 29村 65基（ディアン・デサ財団）総額300万円
- 2村 40基（アマルタインスティテュート）総額100万円

■雨季対策建物修繕事業

（実施中）（アマルタインスティテュート）予算約200万円

エファグッズ 開発・販売

◆グッズ販売の趣旨と仕組み◆

エファグッズは、「ベトナム子どもの家」で実施している職業訓練教室の成果品です。現在「ベトナム子どもの家」では、縫製、刺繍、理容の3つが職業訓練として実施されており、子どもの家に保護されている子どもたちだけでなく、「ホンバン愛の家」や、近隣に住む子どもたちにも開放されています。

縫製・刺繍教室の成果品のうち、販売できるものをエファジャパンが買い取り、エファグッズとして販売し、収益を子どもたちに還元しています。商品によって異なる

りますが、売り上げの
だいたい3分の1ずつ
経費（材料・運搬等）、
子どもの家運営基金へ
の組み入れ、子どもの
収入となります。子ども
たちは、放課後自分の
ペースで教室に参加し、おこづかい程度の収入を得る
機会にもなります。



【収支】	収入	エファグッズ	2,890,200	支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	7,310,874
		自治労布袋	5,369,500			
	収入合計		8,259,700	支出合計		7,310,874
			利益	948,826		

◆商品開発について◆

子どもの家所長、刺繍や縫製の先生と協議しながら商品開発を進めています。販売を通して会員や購入者の皆様からいただいたご意見を参考に、作業をする子どもや職員の負担にならないように工夫をしながら、より好評いただける商品を目指しています。本事業を通して、毎

年多くのご注文をいただいている自治労布袋の製作に加え、徐々に様々な方から記念品製作の注文も増えていきます。注文が増えるにしたがって子ども達の技術も向上し、技術の高い子どもはベトナムの一般のお店からも注文を受けるようになり、安定した収入源になりつつあります。



◆カタログ・ホームページ◆

エファグッズはホームページで公開しているほか、カタログを作成し会員その他へ配布しています。2006年度版の「エファグッズカタログ 2006」はエファ事務局にて撮影・編集。約800部を配布しました。

来年度は、撮影場所や撮影モデルなどについてボランティア等の協力を得ながら、商品の魅力を最大限ご覧いただけるよう努力していきます。

これからも…

2005年半ばから販売を始めたエファグッズもまる2年を迎えようとしています。商品の精査、価格の適正化と新たな商品開発を行うことで、引き続き多くの皆様に親しんでいただき、「ベトナム子どもの家」運営支援を継続しつつ、子どもたちの状況をアピールしていきたいと考えています。

国内事業

イベント・集会等

■設立2周年記念イベント：大石芳野氏写真展・対談

エファジャパン設立2周年を記念し、フォトジャーナリスト・大石芳野氏の写真展、およびエファジャパン理事長イーデス・ハンソンとの対談を東京・銀座のシンワアートミュージアムにて開催しました。（写真展：2007年2月27日～3月4日、対談：2月28日。）約170名の方にご来場いただき、好評のもと終了いたしました。

写真展では、大石氏が1980年代より撮影してきたアジアの子どもたちの写真約60点を展示。戦争で傷つきながらも逞しく生きる子どもたちの写真に来場者は熱心に見入っていました。来場者アンケートには「子どもたちの瞳の奥に戦争の悲惨さ、やりきれない苦しみを感じた」「平和のために一人の存在として何ができるのか考えさせられた」などの感想をいただきました。また、大石氏と理事長との対談では、フォトジャーナリスト、NGO代表のそれぞれの立場からアジアの子どもたちに関わる中で感じてきたこと、活動への思いなどが語られ、来場者の共感を呼んでいました。



【協力企業】シンワアートオークション株式会社（会場提供・イベント運営）、株式会社フレームマン（写真展示）
【イベントボランティア】延べ16名

■その他 2006 年度に参加した主なイベント

- ・メーデー中央大会（4/29・東京）
- ・NTT 労働組合児童労働撲滅キャンペーンイベント（5/21・大阪、6/4・横浜）
- ・自治労第78回定期大会（8/24-25・埼玉）他各種集会
- ・グローバルフェスタ JAPAN2006（9/30-10/1・東京）
- ・国際協力市民講座（11/25・茨城）他

スタディーツアー

現地の様子や支援の成果を実際に肌で感じていただき、エファジャパンの活動や国際協力への理解を深めていただくことを目的に、会員・一般の方を対象としたスタディーツアーを毎年実施しています。2006年度はベトナム、ラオスへのツアーを実施しました。

■ベトナムスタディーツアー(2006年9月5日～12日)

ハイフォン市の二つの児童保護施設（子どもの家、ホンバン愛の家）を訪問し、識字教室や職業訓練教室の様子を見学したり、子どもたちとの交流の時間を楽しみました。続いてイエンバイ省での幼児教育事業を視察。幼稚園訪問、保護者研修の見学、家庭訪問などを行ないました。ツアー後半では、山岳少数民族の村（サバ、バックハー）を訪問。格差の広がりつつあるベトナム社会の様々な側面に触れるツアーとなりました。（参加者3名）

■ラオススタディーツアー(2006年9月17日～24日)

完成式典直前の「ビエンチャン市立図書館・多目的ホール」を訪問し、開設準備支援を行うボランティアツアー

を実施。式典直前の準備作業（植樹・芝張り・資料配架・清掃・日本の公共施設での実践例の解説・建物備品の検査など）を、現地の施設職員と一緒に行いました。植樹作業では、近隣の中学校の生徒や現地園芸業者の方と一緒に汗を流しました。ツアーの最後には完成式典にも参加しました。（参加者7名）



■参加者の声：「NGOの存在が地域の人々にとって、どれほど心強いかわかることをしっかりと見られて良かったです。他のNGOスタッフのお話を聞いたり、現地の行政職員との質疑の時間等もあり、大変充実したツアーでした。」（ベトナムツアー参加者の感想より抜粋）

広報

■団体パンフレット

2006年5月に改訂。デザインを一新するとともに、エファジャパンの活動全体を網羅した内容へ変更しました。

■広報誌「えんぱわ」

2006年4月にエファジャパン広報誌「えんぱわ」創刊。エファジャパン会員他、関係者・関係団体、全国地域国際化協会、全国ボランティアセンター等へ配布しています。発行：季刊、8,000部

【特集記事】

第1号「パキスタン地震から半年 被災者の今」(パキスタン)

第2号「もう働かなくてもいいんだって!」(ベトナム)

第3号「本不足の国にできた新しい図書館」(ラオス)

第4号「カンボジア スラムに生きる子どもたち」(カンボジア)

■ホームページ (<http://www.efa-japan.org/>)

2006年8月にリニューアル。制作ソフトの更新によ

りリンク切れの問題を解消し、事業の紹介を充実しました。現地の子どもたちの様子をお伝えするため、より多くの写真を掲載しています。

■エファ通信（メールマガジン）

月1～2回配信。エファジャパン会員他ご希望の方にエファの活動報告、最新情報をお知らせしています。

■活動紹介DVD

エファジャパンの活動を紹介するDVDを制作しました。ベトナム・ラオス・カンボジアの現地の様子や子どもたちの暮らしぶり、国内でのイベント、ボランティア活動の様子などを約20分にまとめています。



イベント・集会などで上映し、多くの方にエファの活動をご覧いただけるよう機会を増やしていきたいと考えています。

ボランティア

■エファボラ（エファボランティアデー）

2006年7月より事務局ボランティアを一般募集し、毎月最終木曜に事務局に集合してボランティア活動を行いました。ボランティア内容は、広報誌の発送作業やエファグッズの在庫確認など。毎月3～10名の方にご参加いただき、ボランティア登録していただいた人数は18名になりました。



■イベントボランティア

4月のメーデー、10月のグローバルフェスタ、2月のエファジャパン設立2周年記念イベントにおいてボランティアのみなさんにお手伝いいただきました。イベントは土日・祝日に行われるため高校生から社会人まで幅広い年齢の参加があり、イベント運営のボランティアだけでなく、家族・友人をイベントに誘うなど様々な形で応援していただきました。



収支計算書

2006年4月1日から2007年3月31日まで

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	差異
I 経常収入の部			
1 会費収入	18,680,000	4,052,000	14,628,000
正会員 (個人及び団体)	3,000,000	2,026,000	974,000
シニア会員 (個人)	180,000	54,000	126,000
賛助会員 (個人)	500,000	422,000	78,000
賛助会員 (団体)	15,000,000	1,550,000	13,450,000
2 収益事業費	5,100,000	9,140,816	△ 4,040,816
エファグッズ	2,000,000	2,890,200	△ 890,200
ベトナム布袋	3,000,000	5,369,500	△ 2,369,500
その他	100,000	881,116	△ 781,116
3 寄付 (エファパートナー)	0	471,000	△ 471,000
4 寄付金・補助金・助成金収入	47,000,000	56,157,919	△ 9,157,919
自治労中央本部	15,000,000	15,000,000	0
自治労共済	15,000,000	15,000,000	0
ラオス図書館・多目的ホール建設支援金	14,000,000	14,000,000	0
その他	3,000,000	12,157,919	△ 9,157,919
5 雑収入	2,200,000	57,404	2,142,596
6 為替差益	0	39,409	△ 39,409
経常収入合計	72,980,000	69,918,548	3,061,452
II 経常支出の部			
1 海外事業費	51,005,578	53,258,002	△ 2,252,424
①ベトナム事業費	8,991,000	10,909,481	△ 1,918,481
仕入れ	4,220,000	7,310,874	△ 3,090,874
その他	4,771,000	3,598,607	1,172,393
②カンボジア事業費	4,600,000	4,535,624	64,376
③ラオス事業費	34,214,578	30,531,196	3,683,382
④人道支援	1,100,000	5,833,432	△ 4,733,432
⑤発展途上国援助に関する調査研究事業	2,100,000	1,448,269	651,731
2 国内事業費	12,250,000	7,148,568	5,101,432
①国内事業推進費	6,800,000	3,327,575	3,472,425
収益事業費	2,000,000	2,208,464	△ 208,464
その他	4,800,000	1,119,111	3,680,889
②広報事業費	5,450,000	3,820,993	1,629,007
3 管理費	21,609,626	18,186,169	3,423,457
家賃	2,233,496	3,233,496	△ 1,000,000
事務人件費	13,255,200	9,076,286	4,178,914
光熱費	200,000	156,301	43,699
通信費	500,000	335,978	164,022
消耗品費	100,000	204,763	△ 104,763
旅費交通費	1,200,000	751,315	448,685
理事会運営費	100,000	165,700	△ 65,700
総会運営費	100,000	0	100,000
法定福利費	1,634,050	1,908,973	△ 274,923
修繕費他	50,000	0	50,000
印刷費	450,000	489,398	△ 39,398
機器リース代	596,880	600,384	△ 3,504
福利厚生費	35,000	85,915	△ 50,915
支払手数料	100,000	158,739	△ 58,739
租税公課	5,000	6,624	△ 1,624
研修費	20,000	17,000	3,000
新聞図書費	30,000	8,220	21,780
業務委託費	1,000,000	987,077	12,923
4 為替差損	0	142,355	△ 142,355
5 雑損失	0	9,740	△ 9,740
6 法人税等	70,000	70,000	0
経常支出合計	84,935,204	78,814,834	6,120,370
経常収支差額	△ 11,955,204	△ 8,896,286	△ 3,058,918
III その他資金収入			
その他資金収入合計	0	0	0
IV その他資金支出			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額	△ 11,955,204	△ 8,896,286	△ 3,058,918

貸借対照表

2007年3月31日現在

特定非営利活動法人 エフアジヤパン

(単位：円)

科 目		金 額	
I	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金	10,007,846	
	未収会費	598,000	
	棚卸資産	315,351	
	前払金	4,815	
	立替金	199,765	
	未収金	747,900	
	前払費用	284,786	
	流動資産合計		12,158,463
2	固定資産		
	その他の固定資産		
	保証金	2,600,000	
	その他の固定資産合計	2,600,000	
	固定資産合計		2,600,000
	資産合計		14,758,463
II	負債の部		
1	流動負債		
	買掛金	58,725	
	未払金	459,901	
	前受金	40,000	
	預り金	289,627	
	未払法人税等	70,000	
	流動負債合計		918,253
	負債合計		918,253
III	正味財産の部		
	正味財産		13,840,210
	(うち当期正味財産減少額)		8,896,286
	負債及び正味財産合計		14,758,463

財産目録

2007年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	10,007,846		
現金 現金手許有高	324,443		
普通預金	4,535,897		
中央労働金庫市谷支店	3,163,146		
東京三菱銀行市ヶ谷支店	926,127		
東京三菱	446,624		
郵便振替口座	5,147,506		
未収会費	598,000		
棚卸資産	315,351		
前払金	4,815		
立替金	199,765		
未収金	747,900		
前払費用	284,786		
流動資産合計		12,158,463	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			14,758,463
II 負債の部			
1 流動負債			
買掛金	58,725		
未払金	459,901		
前受金	40,000		
預り金	289,627		
源泉税	68,931		
健康保険	42,968		
厚生年金	73,209		
雇用保険	101,719		
住民税	2,800		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		918,253	
負債合計			918,253
正味財産			13,840,210

エファジャパンの組織

支援者

- ・エファパートナー
- ・一般寄付者（個人）
- ・一般寄付者（団体）
- ・事業指定寄付者（個人）
（ラオス・緊急人道支援）
- ・事業指定寄付者（団体）
（ベトナム・ラオス・カンボジア・
緊急人道支援）
- ・ボランティア（事務局ボランテリア・
イベントボランティア）

会 員

正会員…184 人

シニア会員…12 人

賛助会員個人…44 人

賛助会員団体…29 団体

総会（正会員で構成）

理事会

理事長	イーデス・ハンソン
副理事長	人見 一夫
理事	井ノ口 登
理事	植本 眞砂子
理事	玉井 一匡
理事	吉川 健治
監事	新開 忠孝

事務局

事務局長	吉川 健治
海外事業	高山 淳子
国内事業	五十嵐 香織
広報	宮原 朝香
外務省専門調査員 （ラオス図書館担当）	黒岩 弘之

2007 年 3 月 31 日 時点

特定非営利活動法人エファジャパン 2006 年度年次報告書

発行 特定非営利活動法人エファジャパン 2007 年 6 月 27 日

〒102-0081 東京都千代田区四番町4 日本染色会館3階

電話 03-3263-0337 FAX 03-3263-0338 E-mail info@efa-japan.org

ホームページ <http://www.efa-japan.org>



すべての人々に、^{ちから}力を。